



## 10 手術技術度DとEの手術件数

<p><b>解説</b></p>	<p>国立大学附属病院は急性期医療の要であり,外科治療の能力が必要です。この指標は,単に手術件数だけでなく,どの程度難しい手術に対応できるのかを表現する指標です。手術の難しさと必要な医師数を勘案した総合的な手術難度を技術度といますが,外科系学会社会保険委員会連合の試案では,2000種類余りの手術をそれぞれ技術度AからEまでの5段階に分類しています。技術度D及びEには熟練した外科経験を持つ医師・看護師や器具が必要なので,難易度の高い手術といえます。</p>												
<p><b>実績</b></p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>手術件数 (件)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成24年度</td> <td>8,566</td> </tr> <tr> <td>平成25年度</td> <td>8,904</td> </tr> <tr> <td>平成26年度</td> <td>9,242</td> </tr> <tr> <td>平成27年度</td> <td>10,820</td> </tr> <tr> <td>平成28年度</td> <td>10,827</td> </tr> </tbody> </table>	年度	手術件数 (件)	平成24年度	8,566	平成25年度	8,904	平成26年度	9,242	平成27年度	10,820	平成28年度	10,827
年度	手術件数 (件)												
平成24年度	8,566												
平成25年度	8,904												
平成26年度	9,242												
平成27年度	10,820												
平成28年度	10,827												
<p><b>定義</b></p>	<p>平成28年度はDPCデータを元に算出した,厚生労働省科学研究「診断群分類を用いた外来機能,アウトライヤー評価を含む病院機能評価手法とセキュアなデータベース利活用手法の開発に関する研究」総括分担研究報告書に収載された,「平成28年度手術Kコードマスター」(第8.3版準拠)を使用しました。1手術で複数のKコードがある場合は,主たる手術のみの件数とします。</p>												